

豊後大野市の「おうち」と「暮らし」を考えるマガジン。

02
vol.

2020. Spring

BUNGO HOME

Take Free !!

ご自由にお取りください

未来を想う、繋ぐ。

家の「未来」を想うこと。

それは、家族を想うこと。

そして、ふるさとを想うこと。

増え続ける空き家。

それは全国的な問題であり、**豊後大野市**でも深刻な問題となっています。そんな気になる「おうちのこと」について、専門家にお話を伺いました。

アートオブライバー級建築士事務所 代表
NPO 空き家サポートおおいた 県南・豊肥地区 窓口
工藤 健治 さん

豊後大野市の一級建築士に
聞きました！



**家は「記憶」であり、家族の成長を
「記録」してくれているもの。**

私は古民家改修などではなく、一からデザインして新築をつくる仕事がメインで、金額等の面で言うと下手したら古い家を解体したり修繕するよりも、新たに建てた方が安い場合も無しとは言えません。

ただ、古い家を見ていて思うのは「簡単に壊せない」ということです。これは物理的な話ではなく心理的なものになるのですが・・・。家って記憶であり家族の成長の記録もあるんですよね。特に今の家と違って昔の家というのは「柱」を見せる構造になっているんです。柱を見せる家というのはその柱を美しくするために建てる時に手間がかかっているのと同時に、家族を見守ってくれる象徴です。例えばよく昔の家であるのが子どもたちの身長を柱に刻むこと。これってその家の歴史が家族の歴史であることの現れですね。だから現代のように核家族化してなかった頃の「我が家」の一軒家というものは思い出がいっぱい詰まっているんです。私も、もし建て替えの仕事の際は、「柱」を捨てたりすることはせずに、何かしらにリメイクしてお渡しするようにしています。



家族会議をしない日本文化が 危険な空き家を生み出す。

家族会議をしない日本文化も、空き家を生む一つの要因だと思います。

日本人って何だか奥ゆかしいところがあって、死んだ後の話はあまりしたがらないんですよね。今でこそ「終活」という言葉が少しずつ広まりつつありますが、それでもなかなか家族で集まって「おじいちゃんが亡くなった後この家は～」とか、将来の家の事を真剣に考える機会が少ないと思います。核家族化している現代ではさらに会議しにくいところがあるかと思いますが、年に一度でも、家族みんなで集まっておじいちゃんやおばあちゃんと真剣に「家の将来」を考えるべきだと思います。



空き家問題は 「地球温暖化」と同じ。

良くないことは分かっている。将来必ず直面する問題だと分かっている。それでも、今すぐに具体的に動けているかと言えばそうでもない…。というのが空き家問題だと思うんです。これって地球温暖化に似ていますよね。

もうかなり前から言われ続けている地球温暖化問題は、なんとなく「やばい」という気持ちが一人ひとりにあります。なんだかいつの間にか忘れてたりする。いつか直面する問題を、忘れていたり後回しにしたり誰かに頼っていたり…

それが「気づいたら手遅れ」に繋がる可能性がありますよね。そんな危機感を皆さんに思い出してもらったり、警鐘を鳴らすことが、行政だったり空き家の業者だったりこのフリーぺーパーだったり…の役目なのかもしれません。

「住まないので 固定資産税がかかる 空き家を売りたい・手放したい！」

「実家が空き家になった！でも住む予定の身内がいない！」

誰か住んでくれる人はいないかな？？」

「空き家になった実家・・・遠くて帰省が頻繁にできない！」

誰かに家の管理を依頼できないかな・・・」

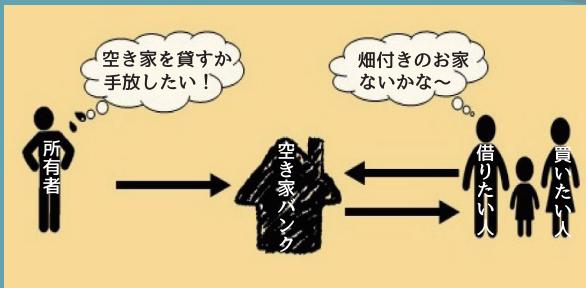
そ ん な 時 は・・・

おすすめ

おすすめ

1 空き家バンクに登録

空き家バンクとは、空き家所有者と空き家の利用希望者をマッチングするための仕組みです。



詳しくは下記にお問い合わせください！

豊後大野市役所まちづくり推進課 TEL / 0974(22)1001

おすすめ

おすすめ

2 空き家管理を委託

「NPO 法人 空き家サポートおおいた」では、月額 3000 円～ 草刈り、ガス・水道の点検などといった、空き家管理の代行サービスが実施されています。

詳しくは下記にお問い合わせください！

NPO 法人 空き家サポートおおいた

大分市大字津留 1911 番地 19

TEL / 097(578)8782

MAIL / info@akiya-oita.com

NPO 法人空き家サポートおおいた 検索



は
な
れ
古
舎
オ
ー
ナ
ー

はなれ古舎オーナー
高野知則さん (43)



様々な作家さんの作品を置いている



「はなれ古舎」の外装。旧長谷郵便局の面影が残る。

「居心地のよい空間をつくること」

緑深い山々と美しい田園の広がる犬飼町黒松の道路沿い。ひっそりと建っていたその建物は、夜になるとそのオレンジの灯りでおしゃれな雰囲気と存在感を漂わせていた。

手作りの木工品や古道具、様々なアーティストの作品を置く雑貨屋「はなれ古舎（こや）」だ。

オーナーの高野さんはこの犬飼町黒松に両親と共に暮らし、土日を中心にこの店を開ける。店内はおしゃれな雑貨や古道具であふれ、しっとりと音楽が流れる中、心地よい空間がつくられていた。

「自分の部屋みたいな感覚です。たくさんのお客さんを呼び込みたい、というよりも、お客様が自分の部屋に遊びに来てくれている、という感じでやっています。」

そうゆつたりと笑顔で話す高野さんには、聞く人に安心感を与える雰囲気がある。

高野さんと「はなれ古舎」は似ている。

2010年。旧長谷郵便局だった建物は「はなれ古舎」としてオープンした。もともと大分市で雑貨屋をしていた高野さんは、木工品の製作場所としてこの建物を借りていたが、次第に雑貨を置きはじめ、ついには「はなれにある古い局舎」をお店にすることになったのだ。はじめ、旧郵便局の跡だった建物はお化け屋敷状態だったという。

「人が入りはじめると全然違いますよね。家の中の雰囲気も匂いもすべて変わる。もし誰も使わなかったら、この建物はもう立ち入ることができない状態になっていたかもしれません…と思います。」

人が使ってこそ家は生きる。

そこに人がいなくなってしまうと家も死んでいく。

その建物の思い出や記憶も消えていくのだ。

「古いものって一周回って新しい」

郵便局だった建物はその面影がよく残っていた。かつて窓口だった扉や、郵便局員への呼びかけで掲示されている「迅速親切丁寧」の札に、思わず当時の郵便局と局員、訪れる人々への想いを馳せてしまう。

郵便局に併設された住居も、大規模改修などはせず、ほぼ当時のままだ。

「古道具も古い家も凝ってるんですよね。造りが。なんというか、古い家ってすごく手間がかかって簡単に同じものが作れないんですよ。古道具も同じく凝っていて、何より気持ちがこもっている。そういうところ、好きですね。」

そう高野さんはほほえむ。

商品の中に、古くて見たことのない機械を発見した。手形や領収書などに手動で凹凸に印字することのできる「チェックライター」という機械なのだそう。

「古くて見たことがないものって、一周回ってもはや新しいと思っています。」

古くて新しい。それが「はなれ古舎」の洗練された空間を生み出しているのかもしれない。

「イメージがカタチになる喜び」

「はなれ古舎」には高野さん手作りの木工品も置いてある。本棚やラック、ベンチなど、どれも色合いや、角の丸みから木の温もりが伝わるようだ。手作りとはいっても、とても本格的でサイズや高さなどちょうど使いやすい造りになっている。

「手作りの楽しさは『イメージしたものが実際にカタチになる喜び』ですね。今後は、実用的でありながら、ちょっとだけデザイン的に一ひねりあるような物が作れたらなと思っています。」

そんな高野さんに今後の夢を聞いてみると・・・

「もう夢を叶えちゃってますからね…。強いて言えば、この生活をつづけられることが夢ですね。」
そう笑顔で答えた。

このままでいい。
ここ、のままでいい。

変化の激しいこの時代に、変わらない空間でたわいもない会話をする時間はとてもほっとする。

高野さんと「はなれ古舎」は似ている。



手動式のチェックライター



かつての受付窓口の
局員側に掲示された札



高野さん手作りの棚



高野さん手作りのラック



『はなれ古舎』

〒879-7313 大分県豊後大野市犬飼町黒松1222-1

人と人との距離が近くて温かみがある
近所の人たちちは親戚のよう。その地域の人はみんなお互いのこと
を知っていて助け合っていることがすごい！そして人情がある
ふれていてほっこりする

玄関に野菜が置いてある
家の前に野菜が置いてあるのは最初
驚いた！自分もお返しのお菓子を持って行くとそこで地域の人と交流できる。横のつながりが自然と生まれる！

区費・区役最初から把握しておきたい
地域ごとに違う
区費や区役の情報を前もって知つていれば
移住後、その地域により溶け込みやすいかも

子育てもみんなでできたら
色々な環境の子どもたちがいる。
お母さんが孤立しないよう
協力してみんなで子育てできる
仕組みがあつたらいいな

起業するなら田舎が良いと
都會では競合相手が多い中、田舎だと自分の個性を発揮しやすく存在
も知つてもらいやすい。起業したい若者には田舎がおススメ！？

会社がてくれる環境
都會では、電車の中など迷惑がられる場面もあるが、こちらでは周りの方々が子どもを重宝してくれることが多い

趣味を謡歌できる環境
アウトドアが趣味！大好きな登山も釣りも温泉も、車で1時間で行ける環境が幸せ！

店員さんが知り合いになる
お店が少ない分、行く店も限られてくる。そうしたらいつの間にか店員さんと知り合いになって毎回レジで会話が弾む！これって結構な醍醐味！

ぶんごおおのに 移住後のリアルな声 集めてみました

価値観の違い

「当たり前」が違うため
価値観の違いを感じることがある

人が集まる仕組み、助け合う場づくりが出来
移住者でもお年寄りでも、人口が少ないと孤立しがち。人が集まるような仕組みや場づくりは大切だと思う

チャレンジショップとか良いかも
三重町駅前だけでも空き店舗が目立つ。例えば開業したいひと向けに、期間限定で店舗を安く貸してお試し開業みたいなチャレンジショップとか良いのでは

「農業」のイメージを変えたい
仕事がないように見えて豊後大野では農業をしやすい環境にあると思う！農業の「きつい」イメージを変えて若者に就農をPRできれば

「こんな会あったらいいな」の案募集中！

移住者が増えたら良いなと思いつつ、移住した後の孤立を無くすこと、悩みを共有することも大事！そこで、豊後大野をより住みやすくするための「こんな会あったらいいな」を募集しています！
もっともっと暮らしやすく。みんなで考えていきましょう！

ぶん語王道

vol. 2

豊後大野で使われている言葉を紹介するコーナー！今回は「地名」に注目しました♪



編集者後記

「熱」のある発信をしたい。

当フリーペーパーを手に取っていただき、誠にありがとうございます。豊後大野市の地域おこし協力隊の日淺（ひあさ）と申します。

豊後大野市に移住して間もなく2年が経とうとし、地域おこし協力隊となって1年半が経ちました。「よそ者」として感じる豊後大野の自然、人、コミュニティの魅力は尽きず、日々驚かされることばかりです。現在住んでいる集落でも、新鮮な発見が毎日といつてもいいほどあって、発信したい魅力が山ほどあります。その魅力のワケを探ると、そこにはたくさんの「ストーリー」と「想い」がつまっていることに気がつきました。

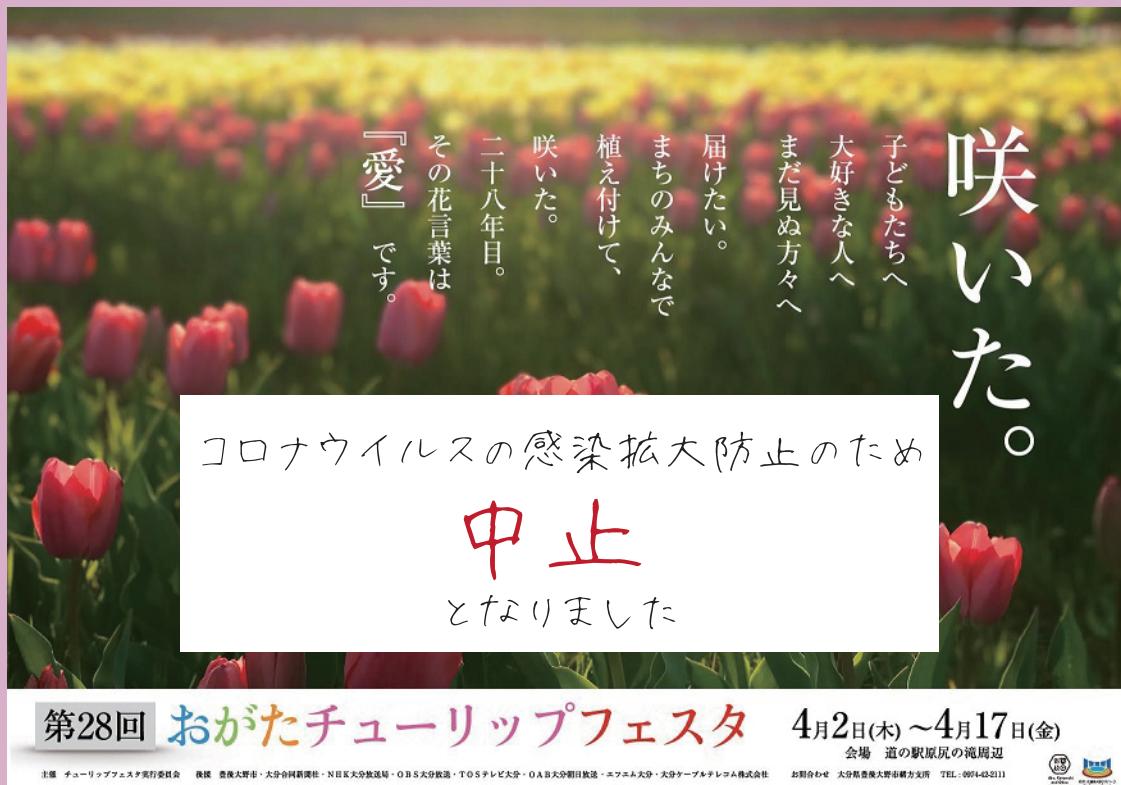
今後も、そんな「ストーリー」と「想い」をしっかりと知って、同じくらいの「熱」のある発信をしたいと思っています。

表紙の写真

緒方町のチューリップ

表紙の写真は2019年の春に撮影した緒方町のチューリップです。

下記ポスターの第28回チューリップフェスタは中止になりましたが、美しいチューリップは咲き誇ります！ぜひ家族と、友人と、大切な人と一緒にチューリップを観にいきませんか。



おがた HOME vol. 02

2020年3月25日発行

発行：豊後大野市役所まちづくり推進課 地域おこし協力隊

発行人：日淺紗矢香

問合先：豊後大野市役所まちづくり推進課

TEL / 0974-22-1001 FAX / 0974-22-3361